ヘルプ！

2015/1/25
シリーズ～詩編～

詩編　第6篇

【指揮者によって。伴奏付き。第八調。賛歌。ダビデの詩。】
主よ、怒ってわたしを責めないでください
憤って懲らしめないでください。
主よ、憐れんでください
わたしは嘆き悲しんでいます。
主よ、癒してください、わたしの骨は恐れ、わたしの魂は恐れおののいています。
主よ、いつまでなのでしょう。
主よ、立ち帰り、わたしの魂を助け出してください。
あなたの慈しみにふさわしくわたしを救ってください。
死の国へ行けば、だれもあなたの名を唱えず
陰府に入れば、だれもあなたに感謝をささげません。

詩編　第6篇

わたしは嘆き疲れました。
夜ごと涙は床に溢れ、寝床は漂
うほどです。
苦悩にわたしの目は衰えて行き
わたしを苦しめる者のゆえに
老いてしまいました。

悪を行う者よ、
皆わたしを離れよ。
主はわたしの泣く声を聞き
主はわたしの嘆きを聞き
主はわたしの祈りを受け入れて
くださる。
敵は皆、恥に落とされて恐れお
ののき、たちまち退いて、
恥に落とされる。

序文

- 指揮者によって
  - 神殿で聖歌隊などによって歌われた
- 伴奏付き。第八調
  - 原語は「第8の音楽（楽器）で」の意
  - 新改訳は楽器を「竪琴」と解し「八弦の竪琴」と訳した
  - 口語訳では「第8」を固有名詞と捉え、「シェミニテにあわせ琴をもってうたわせた」と訳した
- 賛歌
  - “ミズモール”。内容はむしろ嘆願であるが，全体として神を賛美している
- ダビデの詩
  - 作者はダビデ

- 主よ、怒ってわたしを責めないでください。憤って懲らしめないでください。
  - 何らかの理由で主を怒らせてしまい、その罰として懲らしめられていると感じている＜自責＞
  - 非常にストレートに自分の気持ちを言葉にしている＜祈りの詩編＞
- 主よ、憐れんでください。わたしは嘆き悲しんでいます。主よ、癒してください、わたしの骨は恐れ、わたしの魂は恐れおののいています。
  - 主の「憐れみ」に寄り頼んでいる＜嘆願＞
  - ダビデは重い病に苦しみ、癒しを求めている
  - 全身が恐れに支配されている。→ダビデは何を恐れているのか？

- 主よ、いつまでなのでしょう。主よ、立ち帰り／わたしの魂を助け出してください。
  - 人間にとっても最も苦しいのはこの苦しみがいつまで続くかわからないこと。期限が分かっていれば、耐えることは容易い
- あなたの慈しみにふさわしく／わたしを救ってください。死の国へ行けば、だれもあなたの名を唱えず／陰府に入れば／だれもあなたに感謝をささげません。
  - ちょっとした“脅迫？”＜取引＞
  - 慈しみの神なら救えるはずではないか
  - 死んでしまったら神の名を唱えたり感謝できない

- わたしは嘆き疲れました。夜ごと涙は床に溢れ、寝床は漂うほどです。
  - 直訳「涙は私を寝床で泳がせる」→「涙は寝床をプールにする！」涙で泳げるほど泣き続けている
  - 「ソファを涙で溶かしてしまう」
  - “Every night I make my bed swim, I dissolve my couch with my tears.”（英語訳）
- 苦悩にわたしの目は衰えて行き／わたしを苦しめる者のゆえに／老いてしまいました。
  - 目は最初に老いるところ
  - 苦しみのあまり年寄りになってしまった＜泣き言＞

- 悪を行う者よ、皆わたしを離れよ。主はわたしの泣く声を聞き、主はわたしの嘆きを聞き、主はわたしの祈りを受け入れてくださる。
  - 言いたいことをいったせいか、急に態度が肯定的になっている
  - そう気付いたのか？それともそのように思えるようになったのか？あるいは告白して自分を鼓舞しているのか？
  - 祈りが聞かれた（病気が治った）わけではないが，主への信頼と信仰は回復している
- 敵は皆、恥に落とされて恐れおののき／たちまち退いて、恥に落とされる。
  - ずいぶん強気に転じて終わっている

ヘルプ！（助けて！）

主よ、
いつまでなのでしょう。
主よ、立ち帰り、
わたしの魂を助け出し
てください。
あなたの慈しみにふさ
わしく
わたしを救ってくださ
い。